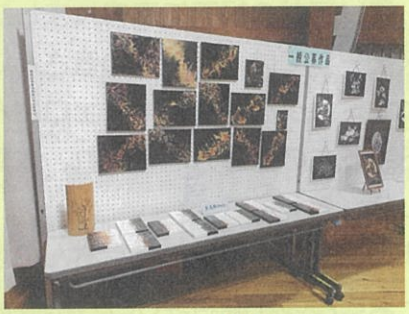
みんなでつくろう！ようかいちのまち

八日市まち協だより

八日市コミセンHP

第73号
令和6年11月発行



八日市地区 文化祭

10/28～11/3 に開催しました

はじめてのバレトン

はじめてのバランスボール

ウォーキングポールを使ったまち歩き

びわこリハビリテーション専門職大学さんの「飲み込みとお口の健康チェック」

第２回八日市コミセン 体にいいことフェスティバル

東近江市のスポーツ推進委員さんが考案したニュースポーツネットでポンポイ

10/6（日）に開催しました

金屋ふれあい祭

10月13日の日曜日に、第3回金屋ふれあい祭りが金屋ふれあい広場で行われました。過去2回は雨の影響を受けましたが、今年はまさに秋晴れ、暑いほどの好天に恵まれました。

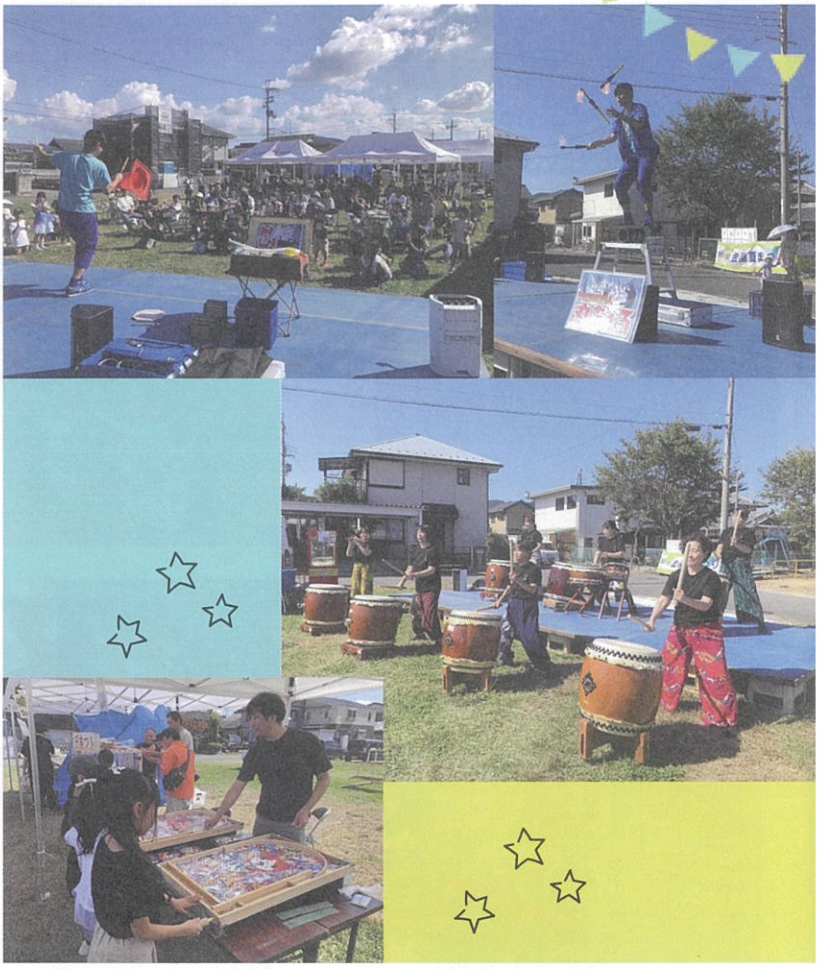
ステージでは「湖鼓（ここ）」の皆さんによる和太鼓のダイナミックな演奏と丸（まる）チェロさんによるハラハラドキドキの大道芸が行われ、大変な盛り上がりでした。

また、大人気の萬善食堂さんの焼きそば、マッキーズさんの沖縄料理、たか翔さんのいなり寿司、そしてKOKONさんのキッチンカーに加え、綿菓子やかき氷など、フードコーナーも充実していました。

さらに景品のお菓子をゲットする射的や千本釣り、スマートボールなど子どもたちはいろいろなゲームを楽しむことができました。

そして何といっても最後のビンゴゲームでは豪華な賞品をめぐって全員が盛り上がり、金屋地域の人たちの交流が行われたにぎやかなお祭となりました。

荒川貴美代さん



八日市町総自治会秋まつり

八日市町は、昨年は8月6日に4年振りに夏まつりを行いましたが、今年は猛暑の時期を避けて「秋まつり」として9月15日に開催しました。

焼きそば、かき氷等さまざまな模擬店や回転くじ、ディスゲッター9、輪投げ、ホールではアマチュア吹奏楽グループの木猫隊（こねこたい）のコンサート、最後には夏まつりから恒例になっているビンゴゲームで盛り上がりました。天候が心配されましたが、幸いなことに終わりまで持ったのはよかったです。

ご来場ありがとうございました。またスタッフの皆様には秋とは思えない真夏日でしたが、準備からさまざまに活躍いただきありがとうございました。

八日市町総自治会長　平井康博さん

GACYA FES に協賛

まち鉄プロジェクトは、10月19日（土）の近江鉄道のガチャフェスに協賛し、八日市コミセンで10月15日～25日に「昔の八日市を再発見　八日市ふるさと絵屏風展」を開催しました。

ふるさと絵屏風の原画と併せてQRコードを貼付けたレプリカ絵屏風を展示、QRコードを読み取ると昔の八日市の街の風景が見られるようにしました。

また、まち鉄プロジェクトでは「昔の八日市」を探しています。ご自宅のアルバムに昔の八日市の写真はございませんか？この写真はT氏宅のアルバムにあったスナップ写真を提供いただいたものです。懐かしい八日市遊園地のコーヒーカップが写っています。

このように、スナップ写真や写真の背景に昔の八日市が写っていたら是非コミセンまでご連絡ください。写真をスキャンし、「ふるさと絵屏風」のQRコードのデータとして活用させていただきたいと思います。お借りした写真はお返しします。

山下勝司さん

防災プロジェクト 防災訓練を開催

防災プロジェクトは、10月26日（土）、東近江行政組合八日市消防署において、大規模災害に備えて、地域防災の要である自主防災組織活動の活性化、地域防災力の向上を図るため防災実践講習会を実施しました。今年は多くの女性の参加があり、消火栓ホースによる放水体験・瓦礫からの人命救助実践体験・簡易担架の作成・被災者の移送などの本格的な実践訓練を体験できました。

松村栄士さん

あれやこれや　其の二十八　苗字と名前の巻

江戸時代末には、華族と士族の一部のみに（全国民の6%）苗字を名乗ることが許されていた。庶民が苗字を公称出来るようになるのは明治3年の「平民苗字許容令」からである。しかし、苗字を持たなくても〇〇村、字（あざ）、△△の××の様に、名前に特色ある地名を冠すれば個人を特定出来るので、苗字の必要性が乏しく、普及は遅々として進まなかった。

中央集権国家を目指す明治新政府は、国民皆兵の徹底を図る為に、明治6年太政官布告により徴兵制を発布した。制度の完遂の目的で、明治8年に「平民苗字必称義務令」によって全国民に対し苗字を義務付けた。苗字を持っていない庶民は、現住している地名を苗字の代用にする。また地元有力者の苗字を借り受ける等の方法を採ったりしたので、地域全体が同一苗字になる珍事もあったと云う。

日本の苗字数は約11万種と多いが、その内何人が同一苗字かと云う全国苗字ランキングの上位5位は、「佐藤」「鈴木」「高橋」「田中」「渡辺」と続く。同じ漢字圏の韓国の苗字数は僅か274種のみで、「金」「李」「朴」で全体の4割を超える。また、中国でも苗字数は約4千種で、「王」「李」「張」で全体の2割以上を占める。

名前は戸籍法に平易な文字とあるのみで規制は無い。以前話題になった「悪魔」君は子どもの福祉を害するとした受付拒否の特例です。

昭和生まれの「昭二」「和子」は元号由来だが、次男や女子を意味する「二」「子」が脱落し、一字の「翔」「碧」が主流になり、直近の上位は「陽翔（はると）」「陽葵（ひまり）」である。

森野吉雄さん

人権について考える

東本町

10 月 13 日に令和 6 年度東本町人権のまちづくり懇談会が開催されました。

テーマは、「自分らしく生きる」あなたの身近にもいるLGBTQ+。

学校で保健室の先生をされている講師の井上鈴佳さんから、性の多様性についてお話をいただきました。LGBT の方が実際に体験されている様々な悩みや偏見が命に関わる問題であることを学ぶことが出来ました。

山下勝司さん

八日市町

八日市町では人権のまちづくり町別懇談会を、10月12日に開催いたしました。

今年は、滋賀県平和祈念館の村田 明 主任主事をお招きし、41名の参加のもと、『滋賀で学ぶ戦争の記録』というタイトルでお話を聴かせていただきました。日の丸への寄せ書きや、出征時ののぼり等の貴重な品々と、戦争経験者の体験談をまじえながら平和について学びました。

川村信蔵さん

八日市清水町

八日市清水町では、10月27日、人権のまちづくり懇談会で、ネット上の誤った情報発信での人権侵害を題材にしたDVDを視聴しました。

改めて人権や差別について考える良い機会になったのではないかと思います。多数のご参加に感謝いたします。

八日市清水町　人権のまちづくり推進員　星田　薫さん

金屋

10 月 26 日に金屋会館にて八日市南小北崎裕章校長をお招きし「ネット社会における子供の人権」と題した懇談会を行いました。①子供たちをとりまく社会情勢 ②コロナ禍を越えた子供たちの様子③子供たちのインターネット利用 ④子供たちにつけたい力とは 以上の内容で進められました。

中でもネット利用の低年齢化、1 歳で 33%、5 歳で 79%、12 歳以上では 99%（全国値）の数字には驚かされました。実際に十分に理解せずにアクセスしトラブルに巻き込まれたり、翌月、多額の請求書が送られてきたりと、親が驚くケースも少なくないそうです。各家庭でインターネット利用のルールを決めておく必要を強く感じました。

小谷昌行さん

浜野

浜野人権のまちづくり町別懇談会が、10 月 26 日に浜野会館で行われました。

「スマホの安全な使い方教室 気をつけよう SNS のトラブルに」と「認知症と向き合う」の 2 例の DVD を視聴しました。

「スマホ」では思いもよらないトラブルに巻き込まれること、「認知症」ではその理解と対応の仕方を、35 名の参加者が熱心に見て、人権問題の気づきと解決を学習しました。

浦根悦夫さん

緑町

緑町総区では、9 月 28 日（土）コミュニティーセンターにおいて人権まちづくり町別懇談会を実施しました。懇談会では「さまざまな人権」のDVDを視聴し、人が人らしく生きていくために、相手の立場などを思いやる人権感覚について学び、それらについて意見交換を行いました。

松村栄士さん

片言隻句（へんげんせっく）

去年と並んで「最も暑い夏」が終わり、身体も心もちょっと一息といった所ですが、石川をはじめ複数の地域で、集中豪雨など自然災害が発生しています。

9月の防災月間には、各自治会でも防災関連の研修や体験学習などが催されていますが、お宅での災害対策はいかがでしょうか。

防災用品・防災用食料の備蓄などは、情報番組や店舗での販売もあり、備えているお宅も多いかと思いますが、災害時の安否確認方法、災害情報の取得方法などの情報に関しての備えもできていますでしょうか。企業においてもBCP※1に対する必要性の認識とともに策定が進んできている所で、情報管理も重要な事項です。

1938年8月に鈴鹿山脈での記録的な集中豪雨で、愛知川の水位が、永源寺で4.5m、春日橋で4.2mとなり、青山地先の右岸が決壊し集落が浸水したそうです。（1972年に永源寺ダムが完成し、愛知川の様子も変わっています）。防災マップでは、水害は浸水0.5～1.0mの想定となっています。

自然災害が比較的少ない八日市に住んでいて良かったと思わず、他府県での自然災害を自分の事として捉え、災害への備えをしておきましょう。また、災害が発生した時は、自助共助が重要となりますので、日頃から地域との繋がりももつようにしておきましょう。

西居　実子

（※1　BCP（事業継続計画）とは、自然災害や感染症の流行、テロ、サイバー攻撃などの緊急事態が起きた際に、被害を最小限に抑え、速やかに事業の回復を図るための計画のこと。）

編集発行
八日市地区まちづくり協議会 八日市コミュニティセンター内
IP電話 050-8034-1141　電話・FAX 23-4120
E-mail 8comi920@e-omi.ne.jp
Instagram　LINE　Facebook